

事例6 「我が国で長く歌われ親しまれている歌曲（共通教材）」を扱った事例

○学年 第1学年

○領域・分野・題材名 A表現(1)歌唱 「歌詞の情景や曲想を生かして表情豊かに歌おう」

○事例のポイント

- ①生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は、【旋律】である。
- ②生徒が思考を広げ深めることができるようグループ設定の工夫やICT活用で思考を可視化する。
- ③グループ活動を通して、主体的・対話的で深い学びの授業展開をする。

ICTを活用した主な学習場面

・生徒の歌唱表現の創意工夫の共有と記録

ICT活用の利点

- ①思考した内容を可視化し、相互の思考を共有、活性化することができる。
- ②歌唱表現を録音し、自分の演奏を客観的に聴くことで、試行錯誤しながら主体的に音楽表現を創意工夫することができる。

1 題材名 歌詞の情景や曲想を生かして表情豊かに歌おう（3時間扱い）

2 題材について

(1) 生徒の実態

生徒は、中学校に入学後の歌唱の授業において、「校歌」の学習を通して歌詞の意味を理解し、思いや意図をもって音楽表現をするための発声の仕方等を学んできた。また、小学校の音楽の授業において、多くの歌唱教材に取り組んでおり、その経験から歌唱の表現活動に対する興味・関心が高い生徒も多い。一方で、我が国や郷土の音楽への興味関心が薄いので、歌唱分野においての「共通教材」や「日本のうた」に親しめるようにしていきたい。

(2) 題材について

本題材では、「赤とんぼ」を教材として、歌詞の情景や曲想を生かして表情豊かに歌うことができるようにする。

第1次では、歌詞が表している情景や曲想に関心を持ち、その内容を味わいながら歌う。

第2次では、創意工夫を生かした歌唱表現をするための歌い方を追求し、最後に思いや意図をもって歌唱をする。第3次では、曲想と歌詞の内容の関わりを考え、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などを試行錯誤する。

題材を通して、歌詞や曲想と音楽の構造との関わりについて理解を深め、歌唱表現を創意工夫することで、我が国の歌曲に親しむ心を養っていきたい。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材は、学習指導要領のA表現(1)歌唱ア、イ(ア)、ウ(ア)に関連している。本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は「旋律」である。

3 題材の目標

(1) 「赤とんぼ」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。
〈知識及び技能〉

(2) 「赤とんぼ」の旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫する。

〈思考力、判断力、表現力等〉

(3) 「赤とんぼ」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われている歌

曲に親しむ。

<学びに向かう力、人間性等>

4 教材について

赤とんぼ（三木露風作詞/山田耕筰作曲）

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕との関連及び具体的な学習活動

指導事項	歌唱ア 歌唱表現に関わる知識と技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。 イ(ア)曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解すること。 ウ(ア)創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けること。
[共通事項]	ア 旋律 イ 拍子・フレーズ
具体的な学習活動	・旋律の特徴と曲想、歌詞の内容との関わりを考え、味わいながら歌う。 ・曲想と歌詞の内容に合った創意工夫を考え、思いや意図をもって歌う。

6 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	知 「赤とんぼ」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 技 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	思 「赤とんぼ」の旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。	態 歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
1時	知 観察・記述		↓
2時		思 観察・記述	
3時	技 観察・聴取		

実践事例として活用しやすいよう、「事例のポイント」を記載しているが、本来は評価項目となる箇所である。
(P111 評価資料を参照)

7 指導と評価の計画（全3時間）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 T：具体的な発問 S：具体的な生徒の姿	○指導上の留意点	事例のポイント ◎留意事項
1	◆曲想や歌詞の表す情景を味わって歌う。		
1	○歌詞が表している情景や曲想に関心をもつ。 ・小学校のときに学習した共通教材について意見交換をする。 ・歌唱を聴き、感じ取った情景や思いをカード(ピンク)に記入する。	○我が国の音楽を学習する意義を考え、自分なりの思いをもてるようにする。 ○学習支援クラウドツールをデジタルノートとして利用し、学習の過程を整理しやすくする。また、思考した内容を一覧化で共有し、多様な考えに触れさせる。	ポイント① ◎【旋律】に注目させることで、知覚したことと感受したこととの関わりについて主体的に考えることができる。

T:どのような情景や思いが込められている曲だと思いますか。

- ・もう一度、歌唱を聴き、楽曲から感じ取った曲の雰囲気や音楽の特徴で気付いたことをカード(黄色)に記入する。
- ・感じ取ったことと気付いたことのカードを結び付け、線をつなぐ。(右図参照)

T:どのような音楽の特徴がありますか。どの情景や思いと結び付きますか。

- 感受したことと知覚したことの関わりについて考えるとともに、曲想と歌詞の内容とを関わらせて歌う。
- ・歌詞が表している情景や心情を想像して歌う。

- 旋律線を意識して歌う。
- ・旋律線を捉えやすくするために、楽譜上の旋律を線をつなぐ。
- ・旋律を手でなぞりながら歌う。

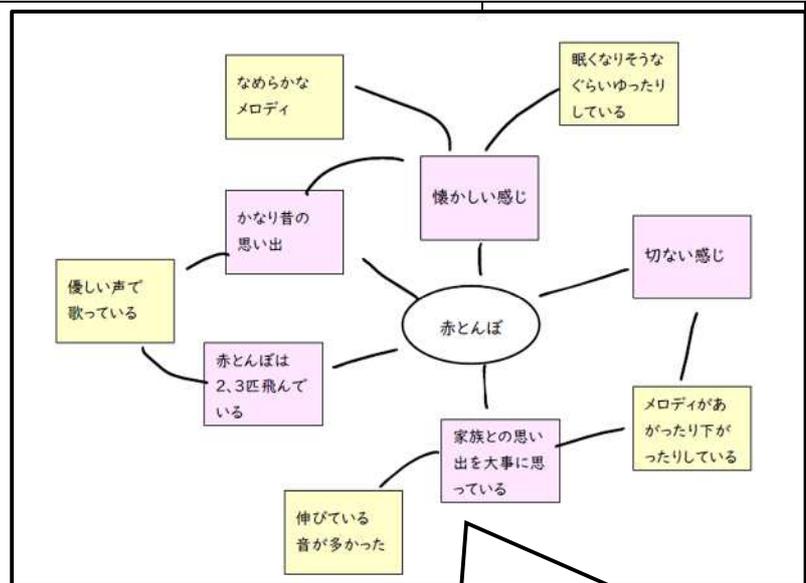
T: 旋律に注目して歌って見ましたが、「音の上がり下がり」「一番低い音や高い音」「音の動き方、伸ばし」など、旋律にはどのようなよさや特徴がありますか。

S: 1段目の1・2小節目は一番低い音から一番高い音に緩やかに上がっていく。

S: 1段目と2段目の最後の伸ばす長さは同じです。

S: 2段目の方が音の上がり下がりが細かく動いていた。

- ・歌詞を朗読し、言葉の抑揚と旋律との関わりに気付く。
- ・歌詞の内容、作詞者、作曲者について知る。
- ・曲想や歌詞の内容を味わいながら歌う。



ICT活用の利点①

ウェビングマップを使用することで、言語活動に対する苦手意識がある生徒も思考の整理がしやすい。また、カードを移動させながら、知覚と感受の結び付きを考えることがしやすくなる。

- 気が付いたことを電子黒板に書き出し、共通理解を図れるようにする。

- 生徒たちが考えた知覚と感受の結び付きを全体で共有しながら、言葉の抑揚と旋律、歌詞の内容との関わりに気付くことができるようにする。
- 歌詞の情景に関連する画像をスライドで提示し、味わいながら歌えるようにする。

<p>2 本時</p>	<p>◆旋律を知覚・感受し、音楽表現を創意工夫する。</p> <p>○旋律の特徴を生かして歌唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の特徴を捉えやすくするために、歌詞唱ではなく「A（ア）」で歌う。 <p>○歌詞の内容を表す声の音色の表情に合う五十音の1文字で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4番の歌詞の表す表情に合う五十音の1文字で歌う。 <p>○4番の表現の工夫を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで意見交換し、全体で共有する。 <p>○個人で4番の表現の工夫を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜に書き込む。 ・歌唱しながら試行錯誤する。 	<p>○1～4番まで同じ旋律が繰り返されていることや1番と4番では同じ歌詞が使われていることに着目させ、それらがもたらす自分の感情の変化に気付かせる。</p> <p>(8 本時の学習指導について) 参照</p> <p>○ウェビングマップを活用し、グループで出された意見を広げ深めていく。</p>	<p>ポイント②</p> <p>◎生徒が主体的に活動する場面設定や対話しやすいグループ人数の設定を行う。また、ICTを活用し、思考を可視化することで、対話と共有を繰り返すことができ、理解を深めることができる。</p>
<p>3</p>	<p>◆思いや意図をもって歌う。</p> <p>○創意工夫を生かした歌唱表現をするための歌い方を追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・録音したものを聴き、<u>3～4人グループで意見交換をする。</u> <p>T: 思いや意図が伝わるようになるためには、どのようなことを意識すればいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに自分の思いや意図が伝わるような発声、言葉の発音、身体の使い方も含め試行錯誤する。 <p>○思いや意図をもち、演奏を1人ずつ発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの中で順番に発表をする。 ・聴いていた人は感想を伝える。 <p>○まとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の歌唱表現を生かして、学級全員で1番から4番を通して歌う。 ・題材を通して、学んだことをワークシートに書く。 	<p>ICT活用の利点①②</p> <p>生徒の思考が即時に可視化され、共有することができる。また、イヤホンスプリッターを活用し、グループで一同に聴くことで、生徒は多様な考え方を比較検討し、相互に学び合うことができる。</p> <p>○発表はグループの中で行い、「発表する人」「録音をする人」「感想を言う人」をローテーションで担当する。</p> <p>○我が国で長く歌い継がれ、広く親しまれているのかについて考えさせる。</p>	<p>ポイント③</p> <p>◎ICTを活用し、自分の歌唱表現を思考錯誤することができるようにし、グループでの意見交換をすることで互いに考えを広げ深められるようにする。</p>

8 本時の学習指導について（2／3時）

(1) 目標

旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。

〈思考力、判断力、表現力等〉

(2) 展開

○学習内容・学習活動 T：教師の発問 S：具体的な生徒の姿	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
○前時の復習をする。	○前時にスライドで提示したイラストや写真をホワイトボードに掲示する。歌詞はスライド（もしくはデジタル教科書）で提示する。
<p>本時の目標 旋律の特徴を生かして、表現を工夫しよう。</p>	
<p>○歌詞の内容を表す声の音色の表情に合う五十音の1文字を考え、歌う。</p> <p>・「赤とんぼ」を通して歌い、気が付いたことを発表する。</p> <p>T：歌詞の内容が違うのに、同じ旋律を4回繰り返しているけれど、歌っているときどのような気持ちになりましたか。</p> <p>S：同じ旋律で変化がないのでつまらない。</p> <p>S：それぞれ雰囲気が違う気がした。</p> <p>S：1番と4番の歌詞はほぼ同じだけれど、歌詞に表されている状況は違うと思う。特に4番は切ない感じでたっぷり歌いたくなかった。</p> <p>T：同じ旋律だからこそ、歌詞の内容から、皆さんの感情が変化したことを、表現の仕方を変えて歌ってみたいですね。今回は、特に前半の歌詞が全く同じという1番と4番を取り上げて歌ってみましょう。</p> <p>T：まずは、旋律の特徴を生かして歌ってみましょう。どのように歌ったらよりよい歌唱になるか、「A（ア）」で歌って気が付いたことを話し合ひましょう。</p> <p>・旋律の特徴を捉えやすくするために、歌詞ではなく、「A（ア）」で歌う。</p> <p>T：では、今の歌唱を生かしながら、今度は「LA（ラ）」で歌ってみましょう。</p> <p>T：次は「LI（リ）」で歌ってみましょう。</p> <p>T：今「ラ」や「リ」で歌って見ましたが、「ラ」や「リ」に変えると曲の雰囲気はどのように変わりましたか。1番の表情に合う1文字は何ですか。</p>	<p>○1番から4番までは、同じ旋律で歌われるということに興味をもたせるとともに、1番と4番では同じ歌詞が使われていることに着目させ、それらがもたらす自分の感情の変化に気付かせる。</p> <p>○旋律の形から感じ取る雰囲気や表情を意識させる。</p> <p>○前時で共通理解をした旋律の形を掲示する。</p> <p>○「ア」で歌うことで、旋律の上がり下がりに着目することができ、旋律の特徴を捉えられるようにする。</p>

S : 「ラ」は明るい感じして、曲想に合わない。
 S : 「リ」は暗い感じがして、切なくなる。
 S : 「ル」の方が懐かしい感じが出ると思う。

T : では、4番を歌うなら、どの文字が合うでしょうか。

S : 寂しい感じがするから「ロ」かな。
 S : 「ワ」のほうが寂しさを増せるのでは。

○ 4番の表現の工夫を3～4人のグループで考える。

T : 1番と4番とでは、表情に違いがあるということですね。では、これまでの学習を生かして、4番をどのように歌ったらよいかグループで意見を出し合しましょう。

- どのような感情を伝えたいかをカード（ピンク）に記入する。
- 旋律の形を生かした表現の工夫をカード（黄色）に記入する。

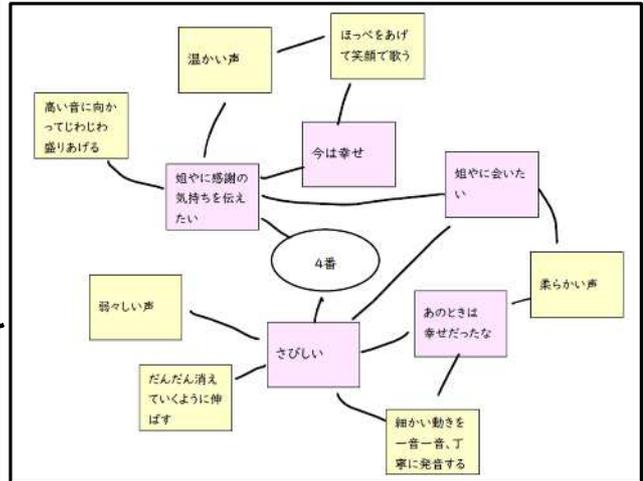
ICT活用の利点①

グループで対話したことや全体で共有したことを可視化し、よりよい表現を求めて思考錯誤させることできる。また、ICTを活用することで、表現方法の追加や修正がしやすくなる。

- 各グループのウェビングマップを全体で共有し、さらに考えを広げ深める。
- 4番の表現の工夫を個人で考える。
- 楽譜に思いや意図を書き入れる。
- 歌唱しながら表現を試行錯誤する。

○ 旋律の表情と歌詞の表情に適する1文字を出し合い、歌って確かめてみる。

○ 歌詞の内容だけで表現の工夫をするのではなく、「旋律」を意識させるために取り入れる。



○ グループで意見を統一するのではなく、それぞれの意見について、一緒に考え、深めたり、広げたりする。前時と本時の学習から学んだことが生かして意見を出し合わせる。

○ 個々の表現の工夫は、必ず歌唱で試すようにし、話し合いだけにならないように指導する。

○ 「発声」「言葉の発音」「強弱」を生かしながら、表現の工夫を考えさせる。

4番は…姐やへの感謝の気持ちが伝わるように歌いたい

Annotations on the score include:

- Red arrow: やわらかい声で (Softly)
- Red arrow: 弱くくせず (Don't be too weak)
- Red arrow: 明るい声で (Brightly)
- Red arrow: 追打でなく温かい大きな山を意識する (Don't use a backbeat, be aware of a warm, large mountain)
- Red arrow: 前半より小さな山 (Smaller mountain from the first half)
- Red arrow: 大気に入る (Enter with atmosphere)
- Blue arrow: 思いを込めていかに (Put your feelings in)
- Blue arrow: ゆったりとていねいに歌う (Sing slowly and politely)
- Blue arrow: 音をやさしく入れる (Insert the sound gently)
- Red arrow: 姐やに思いが届くように笑顔で終わる (End with a smile so that feelings reach her)

<p>・録音をする。</p>	<p>☆思 旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(観察・記述)</p> <p>○伴奏の音源を生徒に共有し、イヤホンを活用しながら歌唱をさせる。練習する中で思いや意図の書き入れを追加、修正しても構わないことを伝える。</p> <p>○共有をしたウェビングマップから自分の考えに近いものを選ばせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">Cと判断されそうな生徒に対する支援例</div> <p>○録音する際は全体で流す伴奏に合わせて歌唱する。</p>
----------------	---

9 板書計画例

【旋律の特徴を生かして、表現を工夫しよう】

<p>1 番の歌詞の内容をイメージできるイラストや写真など</p>	<p>2 番の歌詞の内容をイメージできるイラストや写真など</p>
<p>3 番の歌詞の内容をイメージできるイラストや写真など</p>	<p>4 番の歌詞の内容をイメージできるイラストや写真など</p>

曲想と歌詞の内容との関わりを考えるときの手助けとして1時目のときにスライドで提示したイラストや写真を掲示する。

1番は夕焼けの中、赤とんぼが飛んでいるようなもの、2番は桑の実や小籠がわかるようなもの、3番はお手紙や当時の結婚式での姿がわかるもの、4番は赤とんぼが竿の先に止まっているようなものを用意すると、より思考しやすくなる。

なお、この掲示は授業の流れ、歌詞のスライド、生徒の思考を可視化したものを投影するなどのホワイトボードとは別のホワイトボードに掲示をする。

10 評価の実際（ワークシート等の記録方法含む）

A表現(1)歌唱ア、イ(ア)、ウ(ア)は、生徒の観察を軸にしなが、発言、ワークシートの記述、演奏記録も考慮して評価していく必要がある。

以下、記述や記録の例を挙げる。

(1) 第2時における「思考・判断・表現」に関する評価の具体

○主な学習活動

曲想と歌詞の内容の関わりを考え、楽譜に書く。

○評価規準

旋律を知覚したことと感受したこととの関わりについて生かし、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

<カード>

感じ取った曲想、気が付いた旋律の特徴を生かした歌唱の工夫をおおむね妥当に捉え、言葉や線で書いている。

【カードの記入例】

4番は…姐やに会いたいさびしい気持ちが伝わるように歌いたい

せのない感いで出っけにやさしく歌う
ゆうや け こやけーの あかと え ぼ

盛り上げ過ぎないように
とまっ て いーるーよーさおのーさーさ

遠く長めに伸ばす

ささやよりに発音する

The image shows a handwritten musical score in 2/4 time with a key signature of one flat. The score is annotated with red lines and text. A text box at the top contains the instruction: '4番は…姐やに会いたいさびしい気持ちが伝わるように歌いたい'. The score is divided into two systems. The first system has a circled 'mf' dynamic marking and a red arrow pointing to the melody. The second system has a red line underlining the lyrics and a red arrow pointing to a long note. The lyrics are written in hiragana and some are underlined in red.

<観察>

主に、グループ活動での生徒の発言やつぶやきの状況を観察し、カードの記述のみでは判断できない側面を補完できるようにする

○「十分満足できる」状況（A）の例

<カード>

感じ取った曲想、気が付いた旋律の特徴を生かした歌唱の工夫を複数考え、言葉や線で書いている。

【カードの記入例】

8 本時の学習指導について を参照